

令和8年7月13日

編集・発行 農林水産省農産局技術普及課

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
oo

このメールマガジンは、普及事業に関する情報などを、登録された皆様に無料でお届けするものです。まわりに登録されていない方がおられましたら、ぜひ登録をお勧めください。

登録先は、<https://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html> をご覧ください。

oo

【 本 号 の 内 容 】

【技術普及課からのお知らせ】

- ☆ドローン等の飛行禁止エリアが1000mに拡大します！
- ☆「国内肥料資源利用拡大アワード」募集中です！
- ☆ひとりにしない！夏の農作業における熱中症対策
- ☆スマート技術体系の横展開を図る産地等を募集します！

【病害虫発生予報の発表について】

- ☆「令和8年度 病害虫発生予報第4号」（令和8年7月8日（水）付け）を発表しました

【施策情報】

- ☆令和8年度地域特産物マイスター候補者の募集・推薦について
- ☆GAP（農業生産工程管理）の優れた取組を募集します！
- ☆農林水産業関係者向け農福連携WEBセミナー開催のお知らせ
- ☆「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の公募を開始しました！
- ☆GFP（農林水産物・食品輸出プロジェクト）のご紹介
- ☆生産者と食品事業者をつなぐ「産地連携フォーラム」
- 令和8年度 第1回オンラインセミナー開催（7月29日（水））のお知らせ
- ☆農林漁業バイオ燃料法に基づく支援措置について
- ☆令和8年度スマート農業イノベーション推進会議（IPCSA）総会を開催！
- ☆（みどり戦略技術紹介）茶園用除草機による茶園除草の省力化
- ☆世界初の低アミロース性ソバ新品種（ブランド名：もちやわそば）を育成
- ☆青枯病に強いナス新品種「あのみりパワー」を開発し、種苗販売を開始
- ☆枠板式高畝栽培で全国のアスパラガス生産の安定化・省力化へ
- ☆土壌伝染性のウイルス病に強い麦茶用大麦の新品種「カシマホープ」

++・…… 技術普及課からのお知らせ ……・++

=====

- ◆ドローン等の飛行禁止エリアが1000mに拡大します！

重要施設の周辺地域の上空における小型無人機等の飛行の禁止に関する法律の一部改正に係る周知のお願い

=====

「重要施設の周辺地域の上空における小型無人機等の飛行の禁止に関する法律の一部を改正する法律」が7月14日(火)から施行されることとなりました。

本改正は、小型無人機等の飛行が禁止される対象施設周辺地域として指定すべき地域の範囲を、対象施設の敷地又は区域及びその周囲おおむね300mの地域からおおむね1000mの地域に拡大するほか、対象施設の敷地又は区域以外を対象施設周辺地域(いわゆるイエローゾーン)の上空で小型無人機等の違法な飛行を行った者に対する罰則が創設されることを内容とするものであり、農業分野においてドローンや無人ヘリコプターを活用されている方々にも関係する内容となっています。

普及指導員の皆様におかれましては、ドローンや無人ヘリコプターを使われている農業者の方へ、本改正の周知にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

一部、例外的に飛行が認められるケースもございますので、詳細につきましては下記の警察庁WEBサイトをご確認ください。

▼詳細はこちら(外部リンク)

<https://www.npa.go.jp/bureau/security/kogatamujinki/kouhou.html>

案内リーフレット(外部リンク)

https://www.npa.go.jp/bureau/security/kogatamujinki/pdf/r8_poster.pdf

※お問い合わせ先

農林水産省 農産局 技術普及課 サービスユニット

(担当:佐々木)(03-6744-2107)

=====

◆「国内肥料資源利用拡大アワード」募集中です!

=====

農林水産省では、国内資源由来肥料の利用拡大を目指し、先進事例の横展開・関連情報の提供を行っています。

その一環として、家畜排せつ物や下水汚泥等の国内資源を活用した肥料へ積極的に転換を図る取組や地域で効率的に資源循環を推進する取組等を表彰する「国内肥料資源利用拡大アワード」を日本有機資源協会が当省の補助事業を活用して実施しています。

本アワードは、8月17日(月)まで募集を受け付けておりますので、普及指導員の皆様におかれましては、関係者への周知と、イチオシの取組事例がありましたら、応募に向けて積極的なアプローチをお願いします。

▼詳細はこちら(外部リンク)

<https://www.jora.jp/activity/hiryo/2026award/>

※お問い合わせ先

一般社団法人日本有機資源協会(03-3297-5618)

農林水産省 農産局 技術普及課 肥料ユニット

(担当:井上)(03-6744-2107)

=====

◆ひとりにしない！夏の農作業における熱中症対策

=====

気象庁の3か月予報では、7月～9月の気温は東・西日本と沖縄・奄美は高く、北日本は平年並みか高い見込みです。

平成27年～令和6年における熱中症の累計月別死亡事故件数は、7月と8月で約85%を占め、非常に熱中症リスクが高い時期です。そのため、今一度熱中症対策を見直し、夏本番を迎えましょう。

農林水産省では、7月～9月に熱中症等対策声かけ期間を実施します。「いのちをうばう、夏のひとり作業」をキャッチフレーズに、家族や地域で声をかけあいましょう。また、熱中症等対策声かけ隊を募集中です。農作業現場での見守りや声かけをはじめ、様々な形での活動が対象です。下記URLよりぜひご応募ください。

普及指導員の皆様におかれましても、熱中症等対策声かけ期間の周知及び熱中症等対策声かけ隊への参加呼びかけにご協力いただき、農作業中の声かけ強化をお願いいたします。

▼詳細はこちら

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/anzen/koekake.html

※お問い合わせ先

農林水産省 農産局 技術普及課 機械・安全ユニット

(担当：藤田) (03-6744-2107)

=====

◆スマート技術体系の横展開を図る産地等を募集します！

=====

【全国農業改良普及支援協会】

=====

(一社)全国農業改良普及支援協会では、令和7年度スマート技術体系への包括的転換加速化総合対策事業(全国推進事業)により、スマート農業技術を活用し、その導入効果を大幅に高める栽培体系への抜本的な転換等を行っている先行事例を効果的に横展開するための取組を支援しています。

このたび、下記により、スマート技術体系の横展開を図る産地等の公募(第三次公募)を行っておりますので、お知らせいたします。

地域や品目を問わず募集しておりますが、特に野菜や果樹の取組、市町村や農協が関わっている取組をお待ちしております！

1 支援内容

スマート農業技術を活用し、その導入効果を大幅に高める栽培体系への抜本的な転換等を行っている先行事例を効果的に横展開するための産地の取り組みを支援します。

2 支援対象となる取り組み

ア. 展示圃場の設置

イ. 講習会・研修会の開催

ウ. その他ア、イに関連する必要な推進活動

3 応募団体の要件

都道府県・市町村・国研・独法・J A・J A連合会・農業者・民間企業・任意団体等

4 応募方法

公募要領をご確認の上、指定の応募申請書により 7 月 31 日（金）までに（一社）全国農業改良普及支援協会宛電子メールでお申し込みください。

詳細は、（一社）全国農業改良普及支援協会ホームページをご覧ください。

▼詳細はこちら

（一社）全国農業改良普及支援協会ホームページ（外部リンク）

<https://www.jadea.org/news/20260629/>

※お問い合わせ先

（一社）全国農業改良普及支援協会（担当：佐野）（03-5817-4992）

++・…… 病虫害発生予報の発表について ……・++

=====

◆「令和 8 年度 病虫害発生予報第 4 号」（令和 8 年 7 月 8 日（水）付け）を発表しました

【消費・安全局植物防疫課】

=====

農林水産省は、今後の農作物の病虫害発生動向や防除について「病虫害発生予報第 4 号」を発表しました。

普及指導員の皆様におかれては、病虫害防除所等と連携し、地域での防除が確実に実施されるようご指導をお願いします。

○今後発生量が多くなると予想される主要な病虫害及び地域

- ・ 水稻では、斑点米カメムシ類の発生が、東北、南関東、北陸、四国及び九州の一部の地域で多くなると予想されています。
- ・ 野菜・花きでは、オオタバコガ及びシロイチモジヨトウの発生が、東海及び近畿等の複数の地域の一部で多くなると予想されています。
- ・ 果樹では、果樹カメムシ類の発生が、北関東、北陸、東海、近畿、中国、四国及び九州の一部の地域で多くなると予想されています。

この他、茶のクワシロカイガラムシ等、地域によっては多くなると予想されている病虫害があるので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に適期の防除を実施してください。

○「令和 8 年度 病虫害発生予報第 4 号」の発表について（令和 8 年 7 月 8 日（水）付け農林水産省プレスリリース）はこちらから

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/syokubo/260708.html>

※ 都道府県の発表する病虫害発生予察情報と併せてご利用ください。

○都道府県の病虫害発生予察情報などはこちらから

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/yosatu/index.html>

※お問い合わせ先

農林水産省 消費・安全局 植物防疫課 国内防除第2班

(03-3502-3382)

++・…… 施策情報 ……・++

◆令和8年度地域特産物マイスター候補者の募集・推薦について

【農産局果樹・茶グループ】

公益財団法人日本特産農産物協会は、地域特産作物（茶、伝統野菜、薬用作物等）の栽培・加工技術などについて、卓越した技術能力を有し、産地育成の指導者となる人材を「地域特産物マイスター」として認定・登録をしています。

普及指導員の皆様におかれましては、積極的な人材発掘、推薦についてご協力をお願いします。

応募期限：令和8年9月30日(水)

応募方法：申請書・推薦書を都道府県の担当部局に提出

認定対象：地域の立地条件や独自の技術により生産される農産物や食品等

対象者：対象となる地域特産物の生産、加工等におおむね10年以上携わっている実践的な農業従事者、農産加工関係者等で、卓越した技術・能力を有し、産地育成の指導者となる人材

▼詳細はこちら

公益財団法人日本特産農産物協会ホームページ（外部リンク）

<http://www.jsapa.or.jp/mister/index.html>

※お問い合わせ先

公益財団法人日本特産農産物協会

(担当：寺田、吉川) (03-6689-9428)

農林水産省 農産局 果樹・茶グループ

(担当：小野澤) (03-6744-2512)

◆GAP（農業生産工程管理）の優れた取組を募集します！

【農産局農業環境対策課】

農林水産省では、「令和8年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール（GAP部門）」の表彰候補者を募集しています。

前回のコンクールでは、長野八ヶ岳農業協同組合様の

- ・営農記録をデジタル化し、事務負担を軽減
- ・生産者とJAの信頼関係構築により、産地における取引量・評価が向上

等のGAPの取組が評価され、農林水産大臣賞を受賞しました。

普及指導員の皆様におかれましては、地域でGAPに意欲的に取り組まれて

いる農業者の方に、本コンクールについてご周知いただけますと幸いです。

なお、ご不明点等ございましたら、以下のお問い合わせ先までご連絡ください。

▼詳細はこちら

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/r8_konkuru.html

※お問い合わせ先

農林水産省 農産局 農業環境対策課

(担当：片岡、日高、森岡) (03-6744-7188)

◆農林水産業関係者向け農福連携WEBセミナー開催のお知らせ

【農村振興局都市農村交流課】

農福連携に関心のある全国の農林水産業関係者に向けて、農福連携のWEBセミナーを7月31日(金)に開催します。本セミナーは、農福連携の優良先行事例の発表を中心とし、農福連携の現状と成果を紹介する内容となっております。

普及指導員の皆様におかれましては、日頃の巡回指導や関係者との意見交換等の機会を通じて、ご案内いただくなど、ご協力をお願いします。

▼詳細はこちら：申込締切7月27日(月)17:00(外部リンク)

<https://noufuku.or.jp/7-31>

※お問い合わせ先

一般社団法人日本農福連携協会 (03-6272-8839)

農林水産省 農村振興局 都市農村交流課 農福連携推進室

(担当：沖、窪田) (03-3502-0033)

◆「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」の公募を開始しました！

【農村振興局農村計画課】

農林水産省では、「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」と称し、農山漁村の地域資源を活用した地域の活性化や所得向上に向けた取組を幅広く募集しています。過去に選定された地区(団体・個人)も応募可能です！

募集期間：6月15日(月)～8月31日(月)

ご応募頂いた中から特に優れた取組については選定証の授与や、特設WEBサイト(<https://www.discovermuranotakara.com/>)への掲載、交流会の開催などを通じて全国に広く発信していきます。

あなたの“農山漁村(むら)の宝”を教えてください！自薦他薦問いませんので、自らの取組や身の回りの優れた取組のご応募をお待ちしております！

▼詳細はこちら

●応募ページ（特設WEBサイト）

<https://www.discovermuranotakara.com/sentei/>

●プレスリリース

<https://www.maff.go.jp/j/press/nousin/nousei/260615.html>

●総理官邸で行われた交流会の様子（令和8年1月20日）（首相官邸ホームページ）

https://www.kantei.go.jp/jp/pages/20260120choukan_mura.html

◇お問い合わせ先

農林水産省 農村振興局 農村計画課 農村活性化推進室

（担当：岡村、児嶋、田中）（03-3502-6001）

=====

◆GFP（農林水産物・食品輸出プロジェクト）のご紹介

【輸出・国際局輸出支援課】

=====

GFP（Global Farmers/Fishermen/Foresters/Food Manufactures Project）は、農林水産省が推進する輸出プロジェクトです。国内生産者等の皆さまを対象として、「輸出を始めたいけど、どうしたらいいかわからない」、「輸出について情報収集したい」、「ビジネスパートナーを探したい」といったお悩みをお持ちの方に無料のメンバー登録をお勧めしています。

普及指導員の皆様におかれましては、生産者の経営指導の際に「国内需要減少のリスクヘッジとして輸出」という選択肢もあることをご紹介しますよう、ご協力をお願いします。

▼詳細はこちら

<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/gfp/gfptop.html>

※お問い合わせ先

農林水産省 輸出・国際局 輸出支援課

（担当：鈴木、関根、金澤）（03-6738-7897）

=====

◆生産者と食品事業者をつなぐ「産地連携フォーラム」

令和8年度第1回オンラインセミナー開催（7月29日（水））のお知らせ

【大臣官房新事業・食品産業部食品製造課】

=====

産地連携フォーラムでは、食品事業者と生産者・産地の連携を通じて、国産原材料の安定調達、産地の収益性向上、持続的な取引関係の構築に向けた情報を発信しています。

今回は「食品事業者との連携を始める前後で、収益・販路・安定性・手間など、生産のあり方がどのように変化するか」をテーマに食品事業者と生産者が連携するメリットをお伝えするオンラインセミナーを開催します。

【第1回オンラインセミナー】

日程：7月29日（水）13：30～14：45

テーマ：食品事業者との連携で生産者はどう変わる？

講師：平田観光農園（国産レーズンの製造・販売）代表 平田 真一氏、J A
中野市（ぶどうの供給）常務理事 上野 広樹氏

参加費：無料

申込方法：<https://agriculture-foodindustry-regional sourcing.maff.go.jp/archives/producer/2533>

このほか、全国農業改良普及支援協会会長の別所様より、同会の役割、普及指導現場と食品産業の連携の可能性などについてもお伝えさせていただきます。

普及指導員の皆様におかれましては、産地連携に興味・関心のある生産者・産地等に対する情報提供をいただけますと幸いです。

▼詳細はこちら

産地連携フォーラムWEBサイト

<https://agriculture-foodindustry-regional sourcing.maff.go.jp/>

令和7年度補正予算 農林水産省補助事業産地連携支援緊急対策事業（外部リンク）

<https://www.lapita.jp/maff/sanchirenkei2026/>

※お問い合わせ先

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 食品製造課

（担当：河野、伊東）（03-6738-6166）

◆農林漁業バイオ燃料法に基づく支援措置について

【大臣官房環境バイオマス政策課】

農林水産省では、農林漁業バイオ燃料法に基づき、ソルガムといった資源作物や稲わらといった未利用バイオマス等を供給する農林漁業者とバイオ燃料製造業者が連携して行うバイオ燃料製造、およびバイオ燃料の原材料生産等の研究・開発を支援しています。例えば、農林漁業者等とバイオ燃料製造業者が連携し、バイオ燃料製造に取り組む「生産製造連携事業計画」の認定を受けた場合、固定資産税の課税標準額の減免や無利子の農業改良資金など、様々な支援措置を受けることが可能です。資源作物の栽培やバイオ燃料の製造等をご検討の際には本認定制度の活用についてもぜひご検討ください。

また、普及指導員の皆様におかれましては、現場へのご案内をはじめ、本制度の周知に引き続きご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

▼詳細はこちら

○農林漁業バイオ燃料法関連情報

<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/bio/nenryoho/>

○農林漁業バイオ燃料法パンフレット

<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/bio/nenryoho/attach/pdf/index->

[65.pdf](#)

※お問い合わせ先

農林水産省 大臣官房 環境バイオマス政策課 バイオG

(担当：田島、宮崎、西村) (03-6738-6478)

◆令和8年度スマート農業イノベーション推進会議（IPCSA）総会を開催！

【大臣官房政策課技術政策室】

スマート農業技術の開発と普及の好循環の形成を推進するため、農業者、民間企業、地方公共団体等の多様なプレーヤーが参画する IPCSA において、令和8年7月29日（水）に総会及び交流会を開催します。

「日本の農業のこれからを、アップデート」をテーマに、「海外から見た日本のスマート農業」と題して、ワーヘニンゲン大学の Jos 氏による基調講演のほか、IPCSA をリードする農業者によるパネルディスカッション、交流会を実施いたします。

普及指導員の皆様におかれましては、スマート農業に興味のある管内農業者への周知のご協力をお願いいたします。また、参加は無料で、オンラインでの参加も可能ですので、ぜひご参加のほどよろしくをお願いいたします。

▼詳細はこちら

IPCSA 総会（外部リンク）

<https://ipcsa.naro.go.jp/event/meeting/2026/07/190000.html>

※お問い合わせ先

農林水産省 大臣官房政策課技術政策室

(担当：小島、鈴木、小野) (03-6744-0408)

◆（みどり戦略技術紹介）茶園用除草機による茶園除草の省力化

【大臣官房政策課技術政策室】

有機質資材は、有機・減肥栽培において重要な養分供給源ですが、資材ごとの肥効を予測することが難しく、化学肥料と比べて活用しにくい点が課題となっています。そこで、有機質資材の肥効を予測し、見える化できるアプリが開発されました。本技術により、簡単な入力で窒素・リン酸・カリの肥効を予測でき、適正な施肥管理や化学肥料使用量の低減に貢献します。また、多様な作物や作型、有機質資材に対応できるため、幅広い生産現場で活用が期待されます。

本技術の詳しい情報については、みどり技術カタログをご覧ください。

普及指導員の皆様におかれましては、本技術をはじめ、カタログに掲載されている技術の活用をご検討いただき、生産現場で広く活用されるようご指導及びご協力をお願いします。

▼詳細はこちら

「みどりの食料システム戦略」技術カタログ(分割版：その他) p. 6
有機質資材の肥効見える化アプリ（畑・水田版）

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/10_midori_catalog5_other.pdf#page=6

「みどりの食料システム戦略」技術カタログ

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/catalog.html>

有機質資材の肥効見える化アプリ（外部リンク）

https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/main/non_paddy

※お問い合わせ先

農林水産省 大臣官房 政策課 技術政策室

（担当：中野、小松崎）（０３－３５０２－３１６２）

=====

◆世界初の低アミロース性ソバ新品種（ブランド名：もちやわそば）を育成

【農林水産技術会議事務局研究企画課】

=====

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（以下「農研機構」）は、低アミロース性を持つ世界初のソバ品種「FE2 iAE P2S1L」と「FE3 iAM P2S1L」（ブランド名「もちやわそば」）を育成しました。両品種は従来品種に比べてもちもち感が強く、冷蔵保存した際に硬くなりにくい（冷蔵保存耐性が強い）ため、この特性を生かした新商品の開発により、国産ソバの需要拡大が期待されます。さらに、難脱粒性と難穂発芽性も併せ持ち、収量と品質の安定化に寄与します。

「FE2 iAE P2S1L」は、関東以南で春まきと夏まきによる２期作が可能です。

「FE3 iAM P2S1L」は春まきには適しませんが、夏まきでは「FE2 iAE P2S1L」より多収です。現在、種子利用許諾先での種子増殖が進んでいます。2026年7月頃に小規模から、種子や粉の先行販売が開始される見込みです。

普及指導員の皆様におかれましては、本品種の活用をご検討いただき、生産者への情報提供や普及指導にお役立ていただけますと幸いです。

▼詳細はこちら（外部リンク）

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/175923.html

※お問い合わせ先

農研機構お問い合わせフォーム（外部リンク）

<https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究企画課

（担当：吉田、佐藤、松永）（０３－３５０２－７４０７）

=====

◆青枯病に強いナス新品種「あのみよりパワー」を開発し、種苗販売を開始

【農林水産技術会議事務局研究企画課】

=====

農研機構は、ナスの生産現場において全国的に深刻な問題となっている青枯

病に抵抗性を持つナス新品種「あのみりパワー」を育成しました。

本品種は民間種苗会社から昨年末に種子の販売が開始され、2026 年 4 月からは苗の販売も開始されました。

全国的な普及に向けて「あのみりパワー」の栽培の要点や留意点を解説した標準作業手順書（S O P）を作成し、5 月 21 日（木）より公開しました。

本標準作業手順書（S O P）を活用して「あのみりパワー」を栽培することで、青枯病の被害が問題となっている地域でも、高品質なナスの安定生産が可能になります。

普及指導員の皆様におかれましては、本品種の活用をご検討いただくとともに、本手順書をご活用いただき、現場でのご指導及びご協力をお願いします。

▼詳細はこちら（外部リンク）

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nivfs/175924.html

※お問い合わせ先

農研機構お問い合わせフォーム（外部リンク）

<https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究企画課

（担当：吉田、佐藤、松永）（03－3502－7407）

=====

◆柾板式高畝栽培で全国のアスパラガス生産の安定化・省力化へ

【農林水産技術会議事務局研究企画課】

=====

農研機構はアスパラガスの柾板式高畝栽培に関する標準作業手順書（S O P）を作成し、5 月 21 日（木）に公開しました。改植が必要な方や、新規にアスパラガス生産を始める方の双方に対応した栽培体系を分かりやすく示しています。

本標準作業手順書（S O P）の適用により、全国の水はけが悪い水田転換畑等でのアスパラガス生産の安定化や栽培管理の省力化に役立ちます。

普及指導員の皆様におかれましては、本技術及び本手順書の活用をご検討いただき、現場でのご指導及びご協力いただけますと幸いです。

▼詳細はこちら（外部リンク）

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nivfs/175839.html

※お問い合わせ先

農研機構お問い合わせフォーム（外部リンク）

<https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究企画課

（担当：吉田、佐藤、松永）（03－3502－7407）

=====

◆土壌伝染性のウイルス病に強い麦茶用大麦の新品種「カシマホープ」
【農林水産技術会議事務局研究企画課】

農研機構は、土壌伝染性のウイルス病害であるオオムギ萎縮病およびオオムギ縞萎縮病に抵抗性を有し、関東から東海向けの麦茶用六条皮性大麦の新品種「カシマホープ」を育成しました。現行の主力品種「カシマゴール」はオオムギ萎縮病にかかりやすく、近年、発病による減収が問題となっています。

「カシマホープ」はオオムギ縞萎縮病だけでなくオオムギ萎縮病にも抵抗性を示すため、これらの病害発生地域でも減収しにくく、安定した収量が見込まれます。

「カシマホープ」の普及により、国産麦茶用大麦の安定生産と供給に貢献します。

関東～東海地域の普及指導員の皆様におかれましては、本品種の活用をご検討いただき、現場でのご指導及びご協力をお願いします。

▼詳細はこちら（外部リンク）

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nics/176157.html

※お問い合わせ先

農研機構お問い合わせフォーム（外部リンク）

<https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究企画課

（担当：吉田、佐藤、松永）（０３－３５０２－７４０７）

※メルマガの配信登録はこちら

<https://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html>

※バックナンバーはこちら

https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/hukyu/h_mailmag/index.html

※PDF形式のファイルの閲覧について

メールマガジンに記載したURLで、一部PDF形式のものがあります。

PDFファイルをご覧いただくためには農林水産省ホームページ

⇒ <https://www.maff.go.jp/j/use/link.html>

「３ PDFファイルについて」をご覧になり、「Get Adobe Reader」のボタンでAdobe Readerをダウンロードしてください。